

青猫堂セミナー /Gato Azul 企画

今福龍太・連続講座③「ふれる よむ かく——本の銀河へ」



写真の翳^{かげ}を追って

——ロラン・バルト『明るい部屋』を読む

閉じられた部屋に一筋の光が入り込んで壁に像を結ぶ——。この「暗い部屋」camera obscura（カメラ・オブスクラ）の原理を技術的起源とする「写真」。しかし20世紀フランスの思想家ロラン・バルトは、写真の本質を「明るい部屋」camera lucida（カメラ・ルシダ）ととらえ直した。イメージの本質は、暗い部屋の内部にではなく、明るい外部にこそある。内奥を持たず、見たままの明白な像であるからこそその写真の神秘を、バルトは遺著『明るい部屋』で誰よりも深く省察した。バルトの急逝からわずか一週間後、旅先の私は書店に並んだばかりのこの本をベルギーの首都ブリュッセルで手にした。パリ行き急行列車の窓から差し込む夕暮れの光のなか、この銀色の本のページを開いた途端、私にある促しの声が響いた。南に行きなさい、と。

バルトの本とともに私の「いま」が始まった、ひとつの決定的な瞬間の想いを追想的に語りたい。

私はある種の写真にたいして
野生の状態で向かい合いたかった。
——ロラン・バルト



日時 2024年7月28日（日） 14:00~16:30

場所 青猫堂 滋賀県長浜市三ツ矢町 1-18

参加費 4,500円

（お茶+お菓子+特製冊子付き）

参加お問い合わせ gatoazulshonan@gmail.com

*メールのみとなっております



✓ URLより参加申し込み
12名限定ですので人数に達し次第締め切りいたします

■今福龍太（いまふくりゅうた）

文化人類学者・批評家。2002年より遊動型の野外学舎「奄美自由大学」を主宰。メキシコ、カリブ海、ブラジルなどで広範なフィールドワークを行う。著書に『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』（読売文学賞）『宮沢賢治 デクノボーの叡智』（宮沢賢治賞／角川財団学芸賞）『リングア・フランカへの旅』など多数。

●Gato Azul（*ガト・アスル=スペイン語で青猫の意）
湘南の海辺を拠点として紙や糸の風合いを活かした手製本の制作・出版をおこなうリトルプレスです。
（装本・デザイン=今福明子）
2019年以降台北アートブックフェア出展。昨年からは青猫堂セミナー開催。